
二人で歩く道

薄桜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

二人で歩く道

【Nコード】

N2153BA

【作者名】

薄桜

【あらすじ】

ずっと仲良く、ずっと大好きでいたいから。

彼の実家の近所の道。

傍の神社へ初詣……と、その後洗車に行くから駐車場までの散歩道。子供達はお義姉さんを引っ張って、大騒ぎで公園に行っちゃったから珍しく夫婦二人きり。

以前は普通だったこんな時間も、今は逆に慣れなくて何となくすぐつたい。

けど本当は嬉しい、貴重な時間。

「寒い」って言い訳して、ぶっきらぼうに珍しく繋いでくれた手は、彼のジャンバーのポケットに突っ込まれた。

でもすぐに「歩きにくい」って、あっさり離されちゃった。

うん、そうなんだけどさ……そんなに恥ずかしい？

ゆっくりと二人で歩く風景は、彼には懐かしく、私には珍しい。

少し寂れた漁港の町は、何気なく積まれた道具も味があって心が弾む。

空には獲物おこぼれを狙う強かな鳶が舞い、港には漁船が波で揺れている。

>i38348—2404< >i38349—2404<

記憶と違う景色と想い出を、少しずつ語る彼の言葉が嬉しい。

私の知らない彼の時間が、ほんの少しでも埋まるような心地がする。

太陽を背にして歩けば、長く伸びる影が先に行く。

私はこっそり、でも嬉々としてその影にカメラを向けた。

不意に鳴った電子音に、彼は不思議そうな顔を向ける。

けど、「写真撮ったの」って私は曖昧に笑っておいた。

だって、たぶんまた恥ずかしがるから内緒にしとく。
被写体は仲の良い私達。実際の距離より近い二人の姿だもん。

> i 3 8 3 5 0 — 2 4 0 4 <

もうその先は駐車場。すぐ後ろは公園で、走り回ってる子供達の姿が見えた。

二人だけの時間は、もうそろそろ終わりかな。

んー？ 洗車に行くからもう少し二人つきりでいられるかな？

「洗車だから君達暇だよ」って、ついに行くって言う子達を二人で拒否。

「帰っておやつ食べようか？」お義姉さんありがとう、ナイスアシストです。

うんうん、おやつ食べてて下さい。

じゃあ、もう少し二人で楽しんできます。

結婚してもう少しで9年。付き合いだしてからは13年くらい？

ずっとこれからも、何年経ってもこうしていられるように。

ずっとこれからも、好きだって想われるように。

さあ、頑張れ私。捨てられないようにしなないとね。

だから、大好きなままでいさせてくれる？

ずっとこれからも、『大好きなあなた』でいて下さい。

（後書き）

変則的な「季詞」です。
そして、日記です（笑）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2153ba/>

二人で歩く道

2012年1月5日15時51分発行